

Marine Snow

@asamushi aquarium



2019

ゴマフアザラシの赤ちゃん誕生

加藤 愛

2018年5月5日にゴマフアザラシの赤ちゃんが誕生しました。当館では、実に13年ぶりの誕生となります。

母親は「メイ」で、2010年に六ヶ所村で保護した個体です。父親は「きぼう」で、東日本大震災後アクアマリンふくしまから避難先の水族館で誕生し、2013年に当館にやってきた個体です。2頭はそれ以来、同じ飼育プールで過ごし、2016年の春に初めて交尾が確認されましたが、残念ながらこの年は妊娠には至りませんでした。

そして2017年4月に再び交尾が確認されました。この年メイは、9月末ごろから体重が増加しはじめたため、妊娠の可能性が考えられましたが、今までに血液検査やエコー検査等を行ったことがなく、母体へのストレスをかけないため妊娠検査は行わずの様子を見ることにしました。自然界でのゴマフアザラシの出産時期は妊娠期間が1年余りなので翌年の3月～4月頃になります。メイは食欲も旺盛で、体重は毎月3kg～5kgほど増加し、お腹もふっくらとしてきたように見えました。しかし、出産が予想される4月末になると食欲にムラが生じたため、やはり妊娠ではなく単に餌を与えすぎたため太っただけではないか？、また空振りかな、ということを考えるようにもなりました。

そんなあきらめムードも5月に入ると状況が一転しました。メイが陸場に頻繁に上がる姿が見られるようになり、出産前日には遊泳中の生殖孔から粘液が出ているのを確認しました。やはりこれは出産が近いという確証に変わり迎えた5日の朝、展示プールの陸場には白い産毛に覆われた赤ちゃんがいました！

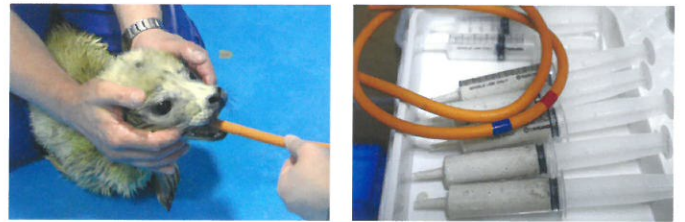
出産を終えた母親のメイは、プール内でぐったりとした様子でしたが我が子を気にしているようでした。赤ちゃん和メイの無事にほっとしたのも束の間、授乳がなかなか確認できません。メイからは母乳が出ていましたが、赤ちゃんとのタイミングが合わないのか側に寄り添ってはいるものの、結局その日に授乳を確認することはできませんでした。出産翌日も授乳は確認できず、このまま授乳が見られ



赤ちゃん和母親

なかつた場合、飼育員が親代わりとなる「人工哺育」も考えなければなりません。赤ちゃんの生後2日目の体重は、6.4kgで、通常よりも小さく痩せていました。一時的に赤ちゃんをメイから離し、哺乳瓶での哺乳を試みましたが上手くはいきません。生後3日目にも授乳は見られず、いよいよ赤ちゃんの体力も、出産後から餌を食べていないメイの体調も心配されたため、生後4日目から人工哺育に切り替えることにしました。哺乳瓶での

哺乳は、乳首の形を変えたりミルクの出る量を調整したりと試行錯誤しましたが、上手く啜えてくれず、十分にミルクを与えることができません。そのため、カテーテルで直接胃にミルクを入れる方法を開始しました。当館でゴマフアザラシの人工哺育を行うのは初めてだったため、ミルクの濃度・量等も排便の状態を確認しながら探り探りでの飼育となりました。幸い赤ちゃんは、毎日少しずつ体重も増加していきました。



生後20日目からは魚を食べる練習を始めました。この頃からは、白い産毛も抜け始めゴマ模様が見えてきました。通常白い産毛は、生後3週間ほどで抜け落ちますが、10ヶ月経った現在も所々残っています。原因はわかりませんが、私たちも初めての人工哺育で至らない点も多々あったのだと思います。通常よりもまだまだ体は小さいですが、元気に成長し体重は20kgになりました。今後も母親の子育てが上手くいかない等のケースがあった場合は、今回の人工哺育の経験を生かし、小さな命を繋ぐ助けができればと思います。またメイは、今回が初産だったこともあり子育てができませんでした。次回はメイの母親としての成長も期待しています。

そして、赤ちゃんアザラシの愛称は、来館されたお客様からの公募を行いました。応募総数は1,757通。5月5日「こどもの日」生まれということに因んで、こどもの日に関する愛称が多く集まり、「かぶと」に決定しました。7月23日の35周年記念セレモニーの中で命名式が行われ、展示プールへデビューしました。デビュー直後は、環境の変化に対応できず餌を食べない日が続き、一度バックヤードに戻ったこともありましたが、今ではすっかり環境にも馴染み、水族館の人気者となっています。衰弱し保護された母親と、震災を乗り越え誕生した父親から命が繋がれた「かぶと」。これからも、大きく健やかに育って欲しいと思います。

最後に、人工哺育にあたり海棲哺乳類用ミルクをご提供いただいた小樽水族館をはじめ、貴重なご指導、ご助言と資料をいただいた関係各園館の皆様には厚くお礼申し上げます。



産毛が残る「かぶと」

開館35周年を迎えて

我満 理沙



浅虫水族館は1983年7月にオープンし、2018年で開館35周年を迎えました。これもひとえに、いつもご協力いただいている関係各位の皆様、そして35年間支えてくださった青森県内外のお客様のおかげです。誠にありがとうございます。

35周年のテーマは「ありがとう35周年～いのちを感じる場所～」。命について感じとり、学び考える切掛けを作ることは、水族館の大事な役割の一つです。

このテーマにちなみ、「命の誕生」と「命を燃やす生き物」という生物の生と死にスポットを当てた水槽展示とクイズラリーを開催しました。また、イベントホールをいっぱいに使った大きな年表も完成し、GWにはイルカパフォーマンスもより青森県の魅力を盛り込んだ内容へとリニューアルいたしました。さらにおめでたいことに、5月5日には待望のゴマフアザラシの赤ちゃんが誕生！まさに「いのちを感じる場所」というテーマに相応しい出来事でした。

夏には、浅虫地区で行われている浅虫ねぶたにも初参加。おなじみのCMソングに合わせたダンスを披露しながら、「こころね



ぶた」が浅虫の街を練り歩きました。

そして7月23日の開館記念日には、35周年記念セレモニーが開催されました。三村申吾青森県知事からお祝いのメッセージを賜り、5月5日生まれのゴマフアザラシの愛称が発表されました。公募で決まった愛称は、生まれた日に因んだ「かぶと」。命名代表者として青森市の樋口誠治くんへ当館館長から命名証を贈呈いたしました。

35周年を迎え、沢山の方からお祝いのお言葉を頂き改めて浅虫水族館が県民の皆様にも愛されている場所であることを感じた

1年でした。これからも来ていただいたお客様に学びや楽しさを提供できる施設であるようスタッフ一同励んで参ります。



陸奥湾の海に人魚現る

桃井 駿介

2018年12月2日の朝、浅虫水族館に青森市のお隣、平内町茂浦の漁師の方から「珍しい魚が海岸に打ちあがった」という連絡が入りました。実際に駆けつけてみると全長約4.7メートルのリュウグウノツカイが打ち上げられていました。

リュウグウノツカイは日本近海、太平洋、インド洋、大西洋の沖合の中深層に生息していることが知られている深海魚です。全長は最大で10m以上になることもあります。細長く銀色の体に大きな丸い目、頭部には赤く長い背びれが髪の毛のように伸びており、細長く赤い腹鰭が特徴的な魚です。

青森県ではこれまで4例の記録がありますが、そのうち陸奥湾内では今回を含めて2例目になります。今回海岸に打ち上げられた個体は、残念ながら吻端が欠損しており完全なものではありませんでしたが、貴重な標本ということもあり水族館に持ち帰って計測を行いました。

一般公開には至りませんでした。当日水族館の裏方見学会にご参加いただいた方にはご覧いただくことができました。



海岸に打ち上げられたリュウグウノツカイ

ところで、このリュウグウノツカイですが熱帯の海に暮らす海牛類（ジュゴン、マナティ）とならんで人魚伝説のモデルになったとも言われています。青森県でも江戸時代に人魚の目撃例が記録に残っており、白い顔や赤い髪であったという記述からこのリュウグウノツカイである可能性が高いそうです。真実は定かではありませんが、人魚伝説のモデルになった貴重な生き物を青森の海で見られたことは大変貴重な体験でした。標本は大学の研究機関に寄贈されましたので、今後この生物の生態の解明に役立てていただければと思います。



搬入後、人との比較

2018年の催し物

| | 4月 | Spring 5月 | 6月 | 7月 | Summer 8月 | 9月 | 10月 | Autumn 11月 | 12月 | 1月 | Winter 2月 | 3月 |
|--------|---|--------------|----|----|--------------|----|-----|---------------|-----|----|--------------|----|
| 特別イベント | 開館35周年記念イベント 7/23~8/31 新イルカパフォーマンス 4/28~ 浅虫水族館35周年記念年表 4/14~3/31 | | | | | | | | | | | |
| 恒例 | 「水の駅 産地直送体験メニュー」 毎日開催 「なるほど水族感劇場」 毎週日曜日開催 | | | | | | | | | | | |
| 特別展示 | 「命の誕生」 4/7~6/7 35周年 記念展示 「命を燃やす生き物」 6/9~8/19 夏のイベント水槽(スルメイカ) 7月下旬~9月上旬 郷土館連携パネル展 江戸の博物学・魚図鑑 6/2~7/22 大正、昭和の浅虫温泉観光案内 7/29~9/30 ハロウィン水槽 10/5~10/31 クリスマス水槽 11/2~12/25 バレンタイン水槽 1/15~2/14 ホワイトデー水槽 2/18~3/14 | | | | | | | | | | | |
| 教育活動 | 浅虫水族館ジュニアクラブ 入校式 5/19 イルカ船上観察会 6/2 親子、海の自然学校 8/11~12 磯の生物観察会 9/29 活動のまとめ 11/17 浅虫水族館図画展 10/13~1/14 | | | | | | | | | | | |

飼育生物

| | 種類 | 点数 |
|-------|-----|--------|
| 海水魚 | 121 | 6,163 |
| 淡水魚 | 60 | 2,713 |
| 無脊椎動物 | 65 | 6,003 |
| 両生類 | 11 | 72 |
| 爬虫類 | 3 | 8 |
| イルカ | 2 | 10 |
| アシカ | 2 | 4 |
| アザラシ | 2 | 9 |
| ペンギン | 1 | 10 |
| 合計 | 267 | 14,992 |

2018年12月31日現在

入館者数

| | 一般 | 団体 | 無料 | 合計 |
|-----|---------|--------|--------|---------|
| 1月 | 9,646 | 842 | 3,903 | 14,391 |
| 2月 | 5,479 | 705 | 2,423 | 8,607 |
| 3月 | 12,934 | 817 | 5,261 | 19,012 |
| 4月 | 14,977 | 1,041 | 5,219 | 21,237 |
| 5月 | 28,180 | 2,395 | 10,508 | 41,083 |
| 6月 | 11,601 | 7,606 | 8,038 | 27,245 |
| 7月 | 18,584 | 4,375 | 8,571 | 31,530 |
| 8月 | 43,238 | 2,699 | 12,963 | 58,900 |
| 9月 | 16,625 | 3,179 | 7,765 | 27,569 |
| 10月 | 12,743 | 3,174 | 7,352 | 23,269 |
| 11月 | 10,710 | 1,104 | 4,522 | 16,336 |
| 12月 | 7,481 | 745 | 3,197 | 11,423 |
| 合計 | 192,198 | 28,682 | 79,722 | 300,602 |

表紙説明：ゴマフアザラシ「かぶと」

2018年5月5日にゴマフアザラシ「かぶと」が誕生しました。当館では初となるゴマフアザラシの人工哺育を行いました。
詳しくは本文をご覧ください。

2018年の主な出来事

- 1月1日 新春祭りinあさむし水族館(1月8日まで)
ホタテのヨットレース
イルカパフォーマンス新春バージョン
正月水槽展示
- 1月13日 「バレンタイン&ホワイトデー水槽」展示(3月14日まで)
- 2月4日 キタオットセイ保護(4月10日八戸東方沖の太平洋にて放流)
- 4月7日 35周年記念「命の誕生」特別展示&クイズラリー開催
- 4月14日 「浅虫水族館35周年記念年表」展示
- 4月28日 イルカパフォーマンススリニユール・テーマ「祭り」
- 5月5日 ゴマフアザラシの赤ちゃん誕生
- 5月中旬 カマイルカ回遊合同調査(6月中旬まで)
- 6月9日 35周年記念「命を燃やす生き物」特別展示&クイズラリー開催
- 7月23日 浅虫水族館35周年記念セレモニー/ゴマフアザラシの赤ちゃん命名式
- 7月28日 スルメイカの群泳展示
- 9月20日 北海道・羅臼よりキチジ、クマガイウオ他搬入
- 9月27日 ギンカクラゲ、カツオノカムリ展示
- 10月中 夜の水族館/ハロウィンナイト開催(10月の毎週土曜日)
- 10月5日 「ハロウィン水槽」展示(10月31日まで)
- 10月10日 東武動物公園とフンボルトペンギン2羽生物交換
- 10月13日 第33回青森県浅虫水族館図画展(2019年1月14日まで)
- 11月中 夜の水族館/ウォッチングナイト開催(11月の毎週土曜日)
- 11月2日 「クリスマス水槽」展示(12月25日まで)
- 12月2日 リュウグウノツカイ漂着
- 12月15日 イルカパフォーマンスクリスマスバージョン (12月25日まで)
- 12月27日 トンネル水槽の大掃除

マリンスノー No.37 2019年3月発行

青森県営浅虫水族館

〒039-3501 青森市浅虫字馬場山1の25

TEL 017-752-3377 FAX 017-752-3379

http://www.asamushi-aqua.com